

川越市次世代育成支援対策地域協議会からの意見(平成24年1月18日)

資料1

基本目標1:子どもと親の豊かな健康づくりの推進

1-(1)子どもと親の健康の確保・増進

No.	事業名	所管課	地域協議会からの意見	所管課の回答・意見
3	乳幼児健診	健康づくり支援課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他市に比べて受診率が高いのか低いのかわからないので、他市の状況についても知りたい。</li> <li>・目標値100%の受診率にどのように近づけていくのか。</li> <li>・健診に来られない1割の理由を知りたい。</li> <li>・母乳育児相談事業は現在実施しているのか。</li> <li>・新生児訪問で近所の助産師を紹介することはあるのか。</li> <li>・健診は午後に実施されているが、基本的に午後は子どもが眠い時間帯である。健診のシステム自体を変えていかないといけないのではないか。</li> <li>・健診の申し込みハガキを出さない人の中にネグレクトのケースもあるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21年度の埼玉県内の実施状況 4か月児健診は88.5～100%(町)、平均95.3%</li> <li>1歳6か月児健診は86.4～100%(町)、平均93.2%</li> <li>3歳児健診は80～100%(町)、平均89.1%</li> <li>・事前に個別通知や健康づくりスケジュール、広報等にて周知し、未受診者へはハガキにて再度受診勧奨している。</li> <li>・未受診の理由として医療機関等他機関での受診や転出等の理由が多く、受診できなかった児への対応として、電話や訪問等で状況確認に努めている。</li> <li>・母乳相談は事業としては実施していないが、乳幼児相談や4か月児健診、新生児訪問の中でも相談する機会を設けており、助産師を紹介することもある。</li> <li>・健診時間については、お願いしている先生の都合があるので午後になってしまう。</li> <li>・ハガキを出さない人に対してはこんにちは赤ちゃん訪問で対応している。電話では様子がわかりづらいので、足で歩いてまわるようにしている。訪問出来なかった人に対しても4か月児健診で診れるようにはなっている。</li> </ul>
9	産婦・新生児訪問指導	健康づくり支援課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問件数2,395件は訪問率何%であるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新生児訪問事業、こんにちは赤ちゃん訪問事業の他、地区担当の保健師による訪問も含め、2,453件訪問し、年度の出生に対する訪問数では訪問率82.1%となっている。</li> </ul>
10	乳幼児訪問指導	健康づくり支援課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21年度の訪問件数が621件に対して、平成22年度は極端に減っているが、制度変更や統計方法の変更などがあったのか。拡充事業でありA評価であるのに件数が減っているのは何故か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こんにちは赤ちゃん訪問事業の開始により、乳児に対する地区担当の訪問件数が減ったことと、継続訪問が必要な世帯が少なかったためと思われる。</li> </ul>

13	両親学級	健康づくり支援課	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成21年度は10回の開催で316人の参加であるが、平成22年度は回数も半分になっている。また、平成23年度の予算額も減っているが、どのような経緯があったのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成21年度は平日と土曜日に開催していたが、夫婦参加であり、平日では仕事で参加しにくいとの意見があったため、平成22年度は土曜日だけの開催とした。定員を大きく上回ることもなく、また、病院でも両親学級を実施している状況にある。</li> </ul>
19	育児関連講座等への協力	健康づくり支援課	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成21年度に比べて開催回数と参加者数が減っているが、開催形態が変わったのか。</li> <li>離乳食について指導できる人がいないように思える。</li> <li>7回だけの実施になっているが、依頼は何回あったのか。拡充事業であるので充実させてほしい。</li> <li>予算が付いていないのは何故か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>依頼のあった講座等に対し職員で対応しているため、例年依頼を受けていた団体と協力体制を調整し、対応できないものについては他機関を紹介するなど体制を変更した。</li> <li>離乳食指導については、栄養士が対応している。</li> <li>12件の依頼のうち5件は対応できなかったため、他の機関、専門職を紹介している。今後もテーマに応じ対応していく。</li> <li>予算については、職員で対応したため計上していない。</li> </ul>
20	未熟児・長期療養児訪問指導	健康づくり支援課	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施数の73件は本当に必要な数であるのか。</li> <li>何を重点として実施していくのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出生体重が2,000g以下の低体重児や養育状況において支援が必要な世帯の訪問を実施した。</li> <li>低体重児であったり、養育支援が必要な世帯では、育児に対する相談者や協力者が特に必要であるため、子どもの健やかな成長を支援するため、保護者の育児不安の解消や養育環境の調整が重要になっている。</li> </ul>

1-(2)「食育」の推進

No.	事業名	所管課	地域協議会からの意見	所管課の回答・意見
1	保育園等における食育の推進	保育課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教育を公立保育園で各6回実施しているだけで食育といえるのか。</li> <li>・保育課に栄養士が2名所属しているが、実際に栄養士として活かした仕事はほとんどしていないと聞く。栄養士は保育園に付けた方がよい。</li> <li>・離乳食の指導として、栄養士が保育園に行くことも大切。</li> <li>・学校給食については、献立表に人気メニューを載せたり、ワンポイントクッキングを載せたりして工夫がみられる。</li> <li>・健康づくり支援課については、どのような考えでC評価としたのか。</li> <li>・給食試食会を年に一回有料でもいいので、保育園、あけぼの・ひかり児童園でも実施してほしい。</li> </ul>	<p>・「栄養教育」は、公立保育園において保育課の栄養士が園児に対し直接行っているが、保育園における食育の一部に過ぎない。栄養教育のみが食育に関する事業となった理由としては、以下の理由による。</p> <p>保育園は、日中就労している等の理由により、家庭における保育ができない部分を保護者に代わって行う場であり、「食育」という言葉がクローズアップされる前から、保育園では、保育の一環として食育が既に行われている。保育全般の中で行われているものを、食育に関する事業として表記することができなかったことから、栄養教育のみの記載となっている。</p> <p>そこで、保育園における食育を、具体的に保育の中に位置づけるため、平成22年度から「川越市保育所食育計画」を策定する中で検討を進めてきたが、平成23年10月に完成し、各認可保育園にその活用についてお知らせしたところである。今後は、各保育園で保育方針に沿った食育の事業計画をたて、保護者や地域の方々にもご協力いただき、「食を営む力」の育成となる食育を推進していきたい。</p> <p>また、献立内容の充実や献立表をはじめとする広報活動の拡充、栄養士の保育園への関わり方についても検討を進めていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食材の産地表示は10月から公立保育園で実施している。保育園では毎日保護者が送り迎えに来るため、目に見える形で対応している。</li> <li>・給食試食会について、保育園に来たお母さんに味見程度はしてもらっていることもあるし、現場では自主的に柔軟に対応しているが、イベントとなると職員の体制も考える必要があるので簡単な形で実施できればいいと思う。あけぼの・ひかり児童園では、あわせて60人くらいの規模であり、給食試食会となると発注する量から考える必要があり、おおがかりなものになってくる。</li> </ul>
		健康づくり支援課		・進捗状況について別添のとおり訂正

2	小・中学校における食育の推進	教育指導課 教育センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動もよいが、児童が食べることを通して学ぶことが大事。</li> <li>・ある学校ではお弁当の日を作って、子どもたちに栄養士の指導のもとでお弁当をつくらせる取組があるが、そのような事業も参考にしてみたい。</li> <li>・野菜等の放射能汚染を心配する親が多い。小さい子どもを持つ親が納得するようなことを実施してほしい。</li> <li>・給食試食会は良い試みである。授業参観や保護者会の時に食事のサンプルを置いてくれるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食週間には各校で食育に関する学級指導や交歓給食、児童、生徒の発表会等が実施され、食に関する興味、関心を高めている。</li> <li>・学校ファームで収穫した農作物を調理して食すことで、食物への感謝の気持ちを培っている。</li> <li>・家庭科において栄養教諭等と連携した授業の取組が実施されている。</li> <li>・給食試食会、講演会で家庭への情報提供を行っている。</li> <li>・お弁当を持参させる日を設けている学校もある。</li> </ul>
		学校給食課		<ul style="list-style-type: none"> <li>・試食会は学校から要望があれば積極的に実施していく。</li> <li>・残飯の問題等もあると思うが、献立を考える栄養士だけでは進まないのか検討している。</li> <li>・給食の内容を保護者の方へ伝える方法としてHPでの公表も検討したい。</li> </ul>

3	地域の特色を活かした「食育」の実践活動	学校給食課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値が学校給食への川越産野菜の使用割合が20%であるのに対して実際は8.8%であるが、どのように考えているか。現在では放射能汚染についても気にする人もいると聞かすが、川越は現場から見ると遠い方ではあると思うし、推進してほしい。</li> <li>・市場に川越産が並んでいけばいいが、並んでいない場合も多くあると思うのでシステムを変えていかないといけない。</li> <li>・事業目標が学校給食への川越産野菜使用割合20%とあるが、例年どのくらいで推移しているのか。</li> <li>・川越の農家がどの時期にどの野菜がどのくらい収穫され、どのような形で市場に出しているかを知ったうえでメニューを作らないといけない。食材の一部だけでも、業者を通じてでも、地元の農家から仕入れる仕組みをつくっていかないといけない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年度8.8%となったのは天候不順が原因となっているので、今後は回復するものと考えている。</li> <li>・野菜の使用を重量ベースで実績にしており、過去5年間を見ると、平成18年度18.4%、平成19年度15.2%、平成20年度16.6%、平成21年度19.3%、平成22年度8.8%と推移している。平成22年度は春と秋に天候不順があったため、単に市場からの購入だけでは難しかった。総合卸売市場には学校給食で、どの時期にどれだけの野菜を使うのかというデータを渡しており、市場にその時期に川越産の野菜が入ってくる見込みが高いければ、発注する際に川越産を指定して発注する取組もしている。</li> <li>米については100%川越産をよく使用している。</li> <li>・放射能汚染のチェックとして農産物については国、県の方で大元で検査して基準値を超える農産物については市場には出回っていないシステムになっている。川越市でも放射性物質検査を12月から始めており、川越産農産物の利用を推進していく。</li> <li>・学校給食では10月から、前もって食材の予定産地を決めて公表しており、1ヶ月の給食が終わったときも予定産地の変更分などを公表している。</li> </ul>
		農政課		<ul style="list-style-type: none"> <li>・川越産農産物のPRに努めていく。</li> </ul>
		保育課		<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園でも、給食用物資納入業者の協力の下、地場農産物を積極的に取り入れるよう努めている。しかし、在園児は0歳～6歳までと年齢も低く、人数も3000人余りであり、保育園で使用する食品の全体量が少ないため、川越産農産物の使用量を増やす事が難しい状況にある。関係各課と連携を密にとり地元産使用の積極的な推進について、検討していきたい。</li> <li>・前年度から基本的に川越産を使うように公立保育園には周知している。産地表示をしているので、川越産の使用率を上げてA評価となるようにしていきたい。</li> </ul>

6	食生活改善推進員協議会の活動支援	健康づくり支援課	・親子料理教室1回しか実施していないが、公民館の調理室は空いている状況が多いと思う。	・食生活改善推進員協議会は、「私達の健康は私達の手で」をスローガンに食生活の改善を目的に活動しているボランティア団体である。川越市食育推進計画に基づいて、自主的に食育の事業に取り組んでいただいている。平成24年度は現在の活動に加え、親子で伝統食や食文化を学ぶ調理実習を春季・夏季・冬季の休暇に計画している。
---	------------------	----------	--	---

1-(3)思春期保健対策の充実

No.	事業名	所管課	地域協議会からの意見	所管課の回答・意見
1	薬物乱用防止啓発	保健総務課	・川越でも子どもに対する誘惑があるという話も聞かすが、現在どのような状況になっているのか知りたい。場合によってはリーフレットを配布するだけでは足りない。	・子どもに対する誘惑の状況については、把握していないが、当課では薬物乱用防止指導員協議会や学校薬剤師会と連携し、各学校において薬物乱用防止の講義も実施している。これらの講義等を実施するにあたり、薬物標本、DVD等の貸し出しやリーフレットを提供している。
		教育指導課		・各学校では「薬物乱用防止教室」を実施している。 ・毎学期、非行調査を実施している。小・中・特別支援学校・市立高校ではそのような事実はなかった。ただ、いつでもそういったことに巻き込まれる可能性があるとの認識で保護者等にも話している。

3	子育て体験学習	子育て支援課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校の校長の希望で実施しているのか。</li> <li>・子育て支援課、保育課では実施しているが、それ以外の所管課でも独自に実施できたらいいと思う。</li> <li>・性教育などについても取り入れて取り組んでほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援課が各学校に事業の案内をして希望のあった学校で実施している。子育て支援課、教育委員会、市民活動団体が共同して実施しており、集められる子どもの人数、インフルエンザの流行時期などを考慮して、毎年10校程度で実施している。</li> </ul>
		青少年課		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童館において、中学生社会体験事業(教育指導課所管)の受け入れにより、子育て体験学習を実施することについて、関係機関等との調整を図りながら検討していきたい。</li> </ul>
		保育課		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育課については、既に実施済み</li> </ul>
		健康づくり支援課		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も子育て支援課が主体となって実施した事業に協力し、健診等の機会を通し、赤ちゃんボランティア募集の周知を行っていきたいと考えている。</li> </ul>
		中央公民館		<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館では、家庭教育の充実(家庭教育力を高めるための、保護者向け講座)、子育て支援の充実の重点施策により多くの事業を実施しており、新たに子育て体験学習を開催するのは難しい。主管課からの要望により検討するものとする。</li> <li>・性教育については家庭教育の充実で実施している。</li> </ul>
		教育指導課		<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の家庭科で幼稚園、保育園等での幼児とふれ合うなどの活動を行っている。</li> <li>・乳幼児とふれ合う中で命の大切さを学ぶNPO法人川越子育てネットワークの「子育て体験事業」を、本年度は12校が実施している。</li> <li>・性に関する指導は、児童生徒の発達段階に応じて、特別活動、保健体育等で実施している。</li> </ul>

4 5 6	思春期健康教育 飲酒・喫煙防止対策 性感染症対策	保健予防課	・薬物、飲酒、喫煙、性感染症について、子ども達に対して教えていくということは大事なことであり、しっかりと実施してほしい。	・性感染症予防につきましては、平成19年度より中学・高校等で出前講座を実施している。平成23年度からは新たに産婦人科医の協力を得ることができ、出前講座を充実させ、予防啓発・知識の伝達にとどまらず、質疑応答にて悩み等への対応を行っている。性感染症予防の啓発は、今後も引き続き充実させ、実施していきたい。
		健康づくり支援課		

基本目標2:心身の健やかな成長に資する教育環境づくりの推進

2-(2)子どもの生きる力の育成に向けた教育環境等の整備

No.	事業名	所管課	地域協議会からの意見	所管課の回答・意見
9	少人数学級、少人数指導の充実	学校管理課 教育指導課	・1クラス増になる場合、臨時採用の職員が担任になるのか。 ・臨時採用の職員がとても多いが、1年契約であるため責任が持てず部活の顧問にもなれないと聞かどどのように考えているのか。 ・チーム・ティーチングはどのくらい実施しているのか。 ・30人学級は大きい。聞かところによると1人転入しないため32人、33人クラスにならざるを得ない場合もある。28人、29人クラスとは雰囲気全然違う。子どもの目線にたって考えてほしい。	・少人数指導は、1学級を2つに分けたり、1学級に複数の教員が指導に当たるなどの形態があり、全校でいずれかの形態で実施している。その中で1学級に複数の教員がついて学習するチーム・ティーチングを行っているのは、小学校で29校、中学校で21校(平成22年度実績)である。 ・県の方針でそのような任用期間になっているが、担任や部活動の顧問など責任を持って取り組んでいる。 ・川越市が独自に教員を増やすことはできない。教員給料は半分は国負担であり、市の予算では臨時講師の給料を負担している。少人数指導教科の指導は加配されており実施している。
12	国際理解教育	教育センター	・AETでの授業について、小中学校合わせて延べ13名の参加となっているが、少ないように感じる。	・「AETと楽しむ英会話研修会」は、研修を希望する教員を対象とした夏季休業中における研修会である。希望研修ということもあり、13名という結果であった。今後、研修会の実施時期や内容等の改善を図り、より魅力あるものになるよう見直しを図っていく。
20	学校部活動補助事業	教育指導課	・平成21年度で終了となっているが、どのような経緯で終了となったのか。	・市の予算が縮減されたことに伴い終了した。